



Tochigiからはじまる
日本が世界の中心になる

Quantum Ecology Technology Development Project

量子生態学 技術開発事業

Step1 事業 説明書

2026年5月

Science QE SRB

株式会社ソウルリバースバンキング

〒323-1105 栃木県栃木市藤岡町甲1687-1

tel : 0282-61-1161

本書について

本書は、弊社の量子生態学・技術開発事業における、Step1、事業計画説明書です。

本事業の上位計画は、量子生態学・技術開発事業説明書カラー版で2026年3月に、Vol.2版に追加情報を記載し4月にまとめ、弊社サイトで2冊統合版を公開しております。翌5月に全体計画の一部実現を目指し、Step1として先行事業を決定しました。本書はその説明書です。

量子生態学で見る従来の産業技術や製品類は、自然摂理を知らずに開発され、それ故に地球破綻の危機を作っています。この技術開発事業では、自然界が弊社に教えてくれた自然摂理を弊社以外の企業や研究者の皆様へお伝えし、地球自然界を整えるもしくは壊さない、産業技術やサービス製品等の研究開発実現を目指します。また量子生態学には、自然界が持つ自然摂理を世界中に伝えるミッションがあります（詳細はVol.2参照）。弊社はこのミッションを果たすべく、自然摂理の存在を、量子生態学発祥地である栃木県栃木市から発信して事業展開致します。

弊社理論を活用頂く皆様には、技術や製品サービス完成後、皆様が量子生態学産業技術のトップリーダーとして、完成技術製品を日本中へ世界中へ広げて頂きたいと考えています。同時に量子生態学による世界へ伝えるべき自然摂理も、参加される皆様の事業と共に日本中、世界中へ届けて頂き、自然摂理に沿う平和で幸せな社会の実現を、共に目指したい所存です。

量子生態学は、栃木の自然が教えてくれた現象論です。本事業は、この自然観を自然豊かな日本に生きる皆様の手で世界中へ広めるもので、日本総出で地球を蘇生再生することを目的にしています。自然摂理に沿う生き方を目指す皆様の事業お引き立て等の参加を、心よりお待ち申し上げます。

目 次

1・量子生態学と社会の現状について	3
2・現在の量子技術と量子生態学	4
2-1・量子コンピューター開発は量子認識を転換すべき	
2-2・医学における量子技術の可能性	
2-3・量子生態学の役割	
3・本年度着手事業	6
1・量子生態学及び宇宙2元波理論に基づく アドバイザー・コンサルティング事業	7
2・① 自然環境汚染解消技術確立事業／一般汚染解消技術	8
2・② 自然環境汚染解消技術確立事業/放射性廃水等放射性廃棄物処理 （鉱物資源の工場生産技術開発）	9
3・量子生態学的理想の暮らし実験ハウス建設	10
4・量子生態学・宇宙2元波理論書籍化	12
5・量子生態学スクール学習映像製作	13

1・量子生態学と社会の現状について

量子生態学は、弊社が2011年に提唱した世界初の量子論で、現在の物理科学界に同じ概念はありません。量子生態学が登場した背景には、今の科学定義が近代科学史の早期に確定された内容で維持され、今の社会に適さない時代に入った実態があります。

原子は20世紀初頭、アインシュタインの理論をペランが検証して存在が確認され、その後の物理科学界は「原子は粒と波の性質を持つ」として、研究が進みました。やがて素粒子論が進化、しかしニュートリノの挙動は物理学界に混乱をもたらしていました。2002年、日本の小柴博士がニュートリノの質量を確認、粒の実態が実証され、物理科学の研究は物質概念で把握する方向へと傾きます。一方で、「量子場の励起が原子を粒や波に見せる」、そんな見解もあり、現在の量子概念は二極化傾向を持っています。

そんな中で弊社は何も知らず、偶然にも、自然界の量子技術を扱っていました。自らの技術が量子作用に由来するなど皆目気付かず、弊社技術は、土・植物・人体のいずれにも共通して同じような反応を起こし、悪化していた環境を整えたり品質向上することを確認していました。

2010年、技術エビデンスを得ようと、栃木県産学官連携窓口に相談、すると、理解できない大学や科学者がどこにもいないと回答が届きます。科学界が弊社技術を理解できない意味も理由もわからないまま、2011年、福島第一原子力発電所の災害事故が発生しました。飛散した放射能が庭や畑に落ち、弊社はこれをかき集めて実験、自分たちの技術が量子作用だったことが判明します。そこで量子に関する原子力技術を調べると、弊社と同じ量子概念が世界の何処にも存在しないことがわかりました。

この年、放射能汚染土壌の早期減衰処理に関する技術提案書を、日本政府・東電・東芝へ提出、提案書に弊社理論を量子生態学と名付けて説明したのが、提唱のきっかけです。

弊社に量子作用を教えてくれたのは、自然界でした。弊社は科学の専門家では無く、学会や大学、研究者らと関係を持ったことは無く、自らの技術を極めたい、そんな単純な思いで、現象変化やメカニズムを自然環境の中で追求し続けていました。やがて、上記の通り、弊社技術を現在の科学界が理解できないと知り、わずか数ヶ月後に迎えたのが福島第一原子力発電所の災害事故です。そしてこの事故は弊社に、重要な環境を提供しました。量子作用の実態を、生活環境というフィールドで体験する場を用意した上に、廃棄物となる放射性元素を原料に、鉱物資源を工場生産できる可能性まで提示したのです。

近代科学を信じていた弊社は、原子力関連の科学プロフェッショナルと共に量子生態学理論を応用し放射性元素から鉱物資源を生成する研究体制を模索、これまで40件ほどの大学や原子力団体企業へ呼びかけ続けました。残念ながら、ほぼ全てから否定・拒絶・無視で終始しています。ところがこの環境こそが理論を独自に進化させ、弊社は宇宙2元波理論を見いだしました。そして新理論の元では、既存科学界にお願いして技術研究する意味がなくなりました。何故なら、元素の周期性の捉え方を筆頭に、中性子の概念、量子の概念、電子軌道と電子殻の構造、電子配置や分子結合など、物質形成のほぼ全てに、近代の物理科学理論と全く違う量子システムを把握してしまったためです。

つまり、既存の科学理論では、弊社の知る自然界の量子作用を説明できない事態が、決定的になったのです。

今後は、弊社理論や事業ミッションに賛同いただく企業や研究者と連携し、自然界自らが教えてくれた理論を連携した皆様に優先してお伝えし、お役立て頂く事業へ転換します。

量子生態学・技術開発事業は、日本の皆様が世界に無い斬新なアイデアの技術開発を実現することを、そして世界が驚くような研究成果を創出することを、後押しします。

2・現在の量子技術と量子生態学

世界は量子技術開発へと進んでいます。弊社から見る現在の量子研究界は、量子そのものの理解が足りないように見えます。真の量子作用を理解せず開発する量子技術は、原子力技術より複雑で手に負えず、影響力は放射線より多大になります。知らないうちに膨大な破壊力で自然環境に影響し、場合により地球環境が一気に吹き飛ぶ可能性さえあります。また、日本で量子をコントロールし、日本の裏側の人の脳を犯すことまで可能にします。

ただし量子は、宇宙自然摂理に沿う反応しか起こしません。自然摂理は進化を担い、不要な存在を転換順応させながら淘汰を進めており、その結果が今の地球です。量子生態学の視点では、人間が望む技術繁栄と宇宙自然界の技術繁栄に、多大な差が見えています。弊社が見る近年の自然災害や社会混乱は、人間の技術繁栄を転換し順応させるために、宇宙進化システムの流れの中で、自然発生していると見受けられます。つまり、宇宙自然界の進化が作る淘汰は、人間が思う技術繁栄を許容せず、地球上で自然摂理に沿う強制転換が進んでいるのです。世界が量子技術に向かう今、内容次第では人類存在が、左右されるかもしれません。

この議論は別にして、量子技術に関する、弊社見解を記します。

2-1・量子コンピューター開発は量子認識を転換すべき

情報処理で扱う量子は、現在、半導体で制御している電子です。しかしこの制御は、半導体の電子を、一個ずつコントロールする必要があります。現在の最大処理量は64ビットで、制御量は物理的な限界を持っています。そこで登場したのが、量子コンピューティングシステムです。電子の代わりに、原子や光子、核スピン、超伝導回路などの量子ビットを用い量子の重ね合わせを応用すると、例えば64ビットなら64×64の処理量が実現します。量子もつれを処理に応用すると、情報を量子ビットに書き換えた途端に、遠方の量子ビットが、同じ情報を持つ状態に量子作用で反応します。この反応を繰り返し、欲しい情報と一致する内容を絞り込みながら情報処理するのが、量子コンピューティングシステムです。

現在開発中の量子ビット技術には、下記のような種類があります。

- ① 超伝導回路 = マイクロ波回路の電流・電圧の量子制御で、現在主流
- ② イオントラップ = イオン（荷電原子）を真空中で配置する
- ③ 光子 = 光子の偏光や経路の重ね合わせを制御する
- ④ 中性原子 = 原子のスピン状態を制御
- ⑤ 半導体量子ドット = 電子スピン（↑↓）制御

上記のように、世界中で種々の方向性から量子ビットのコントロールを模索しています。ところが現技術では、せっかく作った量子ビットによる情報が、その機械が載った机にほんの少しの振動が加わっただけで崩壊するとか、僅かな電磁波で破壊されて処理が安定しないなど、多くの解決すべき課題を抱えています。そして上記技術を弊社が見る限り、超伝導回路以外は、量子ビットを物質次元でコントロールしようとしています。弊社が知る量子は、粒と違う次元の反応性で現象が起こり、自然界には、「粒と量子の次元を交換するシステム」が存在しています。このシステムの前に上記技術は、非現実的と考えざるを得ません。

残念ながら弊社は、量子コンピューティングを開発する能力は無く、また開発意向も持っていません。ただし弊社はこの分野のご協力も可能で、弊社ができることは、開発現場の皆様に量子生態学をお伝えして、弊社が知る自然界の量子作用を知って頂くことです。

地球自然界における量子の実態がわかれば、量子を操作するとは、何をどのようにすべきか方向性が明確になり、効率的で、且つ安全なアプローチが見えるはずで、また、ここに自然摂理をどう反映させるか次第で、量子コンピューティングシステムを、凶器にするか有効なシステムにするかも、決まると思われます。

2-2・医学における量子技術の可能性

医療の視点でも、量子コントロールを使うと、驚くような治療法を確立できます。

量子生態学では、2011年の福島第一原子力発電所の災害事故の時点で、被曝は瞬間解消可能と提言しています。量子はエネルギー作用を起こし、量子生態学で見る被曝は、エネルギー作用です。被曝を手当するには、エネルギー反応処理が必要で、エネルギー反応は瞬間作用であり、故に、被曝は瞬間解消可能と説明しています。

被曝医療共々、医学における量子治療は、量子コンピュータの量子ビットと似た概念で、技術開発できると考えられます。量子ビット同様に、正常細胞の持つ膨大な量子情報を量子の重ね合わせで整え、対象となる人体の特定位置へ量子もつれで反応同期させることで、細胞が正常化する可能性があります。過去、江本勝氏が日本に持ち込んだ波動理論と似た概念がありますが、少し様子が違います。実現には、「量子で作用させて粒に反映させる」次元交替の技術が必要です。従って、次元とはどのように生まれているか、そんな量子メカニズムの知識も必要になるでしょう。そして、ここに必要なのが、宇宙2元波理論です。

医療分野でも、量子生態学や宇宙2元波理論を弊社が提供し、人体の基本的な量子構造を理解すると、前代未聞の医療技術を確立できると思われます。そうなれば医療における量子技術分野でも、日本は世界を牽引するリーダーシップの立場を確立できるでしょう。

2-3・量子生態学の役割

弊社の事業ミッションは、自ら技術を確立し、独自に事業展開するものではありません（一部事業を除きます）。弊社の役割は、弊社が自然界から直接学んだ自然界の量子作用を、日本の企業、技術者、研究者の皆様にお伝えし、地球環境を蘇生再生する自然摂理に沿う技術立国として、日本が世界を牽引する国家になるよう導くことです。弊社自身は、技術リーダーの地位も巨額の利益を得ることも目的としていません。資金支援に対しては、利益還元や原資返済を目指しますが、過度な利益を得るつもりは無いことをご理解ください。

弊社には、利益取得以上に重要な、自然界から提示されたミッションがあります。宇宙に作用する自然摂理を皆様にお知らせすることで、ブラウン運動研究の中で把握しました。地球環境はブラウン運動で存在が維持されていますが、現在、地球上の殆どの自然界でブラウン運動が異常化しており、様々な社会の異常に繋がっています。近代化学合成が産んだナノプラスチック、自然界に無い合成分子の散乱、電磁波、そしてストレス思考、全てが異常を起こす原因になっています。

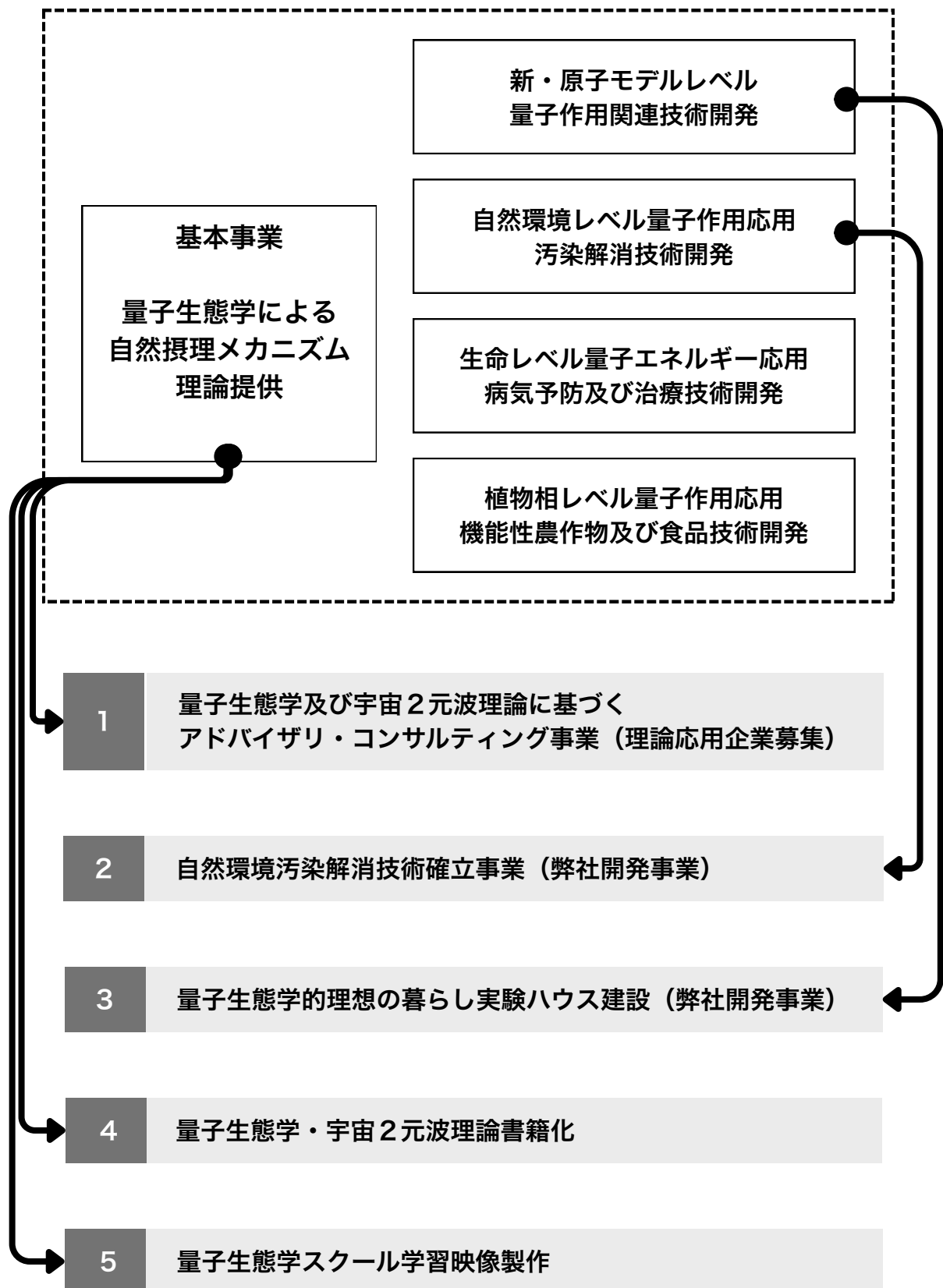
自然界に無かった異常分子が起こすブラウン運動の異常エネルギーは、地球を多動性症候群にしており、異常気象を招き火山噴火や地殻変動を大規模化しています。もし地球に異常分子が無ければ、自然界のナノレベル粒子の運動エネルギーは穏やかで、自然災害も穏やかであり、被害は軽微だったでしょう。今からこれを収めるには、世界が真の量子作用を理解し自然摂理に沿う技術や社会システムへ、早急に転換する必要があります。地球の多動性症候群を治療できれば、今後予測される世界的な大規模災害の発生を、軽減できる可能性があります。間に合うか否か、弊社はその実現のために、本事業を通し尽力する次第です。

そして量子技術には、もうひとつ重要な注意点があります。

人間が機械的に作る量子エネルギーは、人類技術以下の劣化には有益に作用しますが、自然本来の高品質に作用させると、人類レベルの低品質に落とします。故に、真の量子作用を理解しない量子技術は、原子力以上に複雑な現象を作ることをご理解してください。

3・本年度着手事業

Step1では、下記5事業を予定しています。次以降ページでそれぞれをご説明し、その後必要資金とリターン内容、及び資金調達に応じた、事業着手順番をご案内します。



「SDG's」や「持続可能性」などの概念は、地球環境にも社会的にも問題が無ければ登場しない概念で、企業が持続可能性を方針に掲げるなど、本来不要です。このような概念を提示しなければ社会から認められない、そんな現実から見えるのは、現代社会全般に誤りがあることは明らかで、人類社会が採用してきた技術、製品、サービスそしてシステムが、地球を異常化してきたことを暗に認めている状態です。そしてこの根源にあるのが、近代科学です。弊社が自然界から得た量子メカニズムは、近代科学と多大なギャップがあります。自然界が提示してきた理論と大きな違いを持つ近代科学が実現した異常は、従来の科学理論では、もはや解決できないと考えるべきでしょう。この状況からの方向転換をフォローするのが、弊社ミッションです。

弊社の役割は、世界がまだ知らない自然摂理という、宇宙自然界の法律のような仕組みを踏まえた量子作用を、世の中に提供することです。その上で、ひとりでも多くの方に理想的な技術開発や製品開発を実現して頂き、地球の持続可能性を取り戻すことを目指します。

本事業は、その実現のための弊社のメイン事業で、量子生態学や弊社の事業ミッションに賛同頂く企業及び研究者を対象に、アドバイザーやコンサルティングを行います。

アドバイザーでは、企業姿勢方針の再検討や社員皆様の自然摂理理解の一環として活用いただき、量子生態学の基礎知識に関するセッションを通し、意識改革へと繋げます。

コンサルティングでは、企業の技術開発や製品開発において、量子生態学及び宇宙2元波理論によるメカニズム作用論をクライアントと共有し、技術製品の完成を共に目指します。

研究者の皆様には、量子生態学・宇宙2元波に関するテーマに取り組んでいただき、理論詳細や実験条件情報等を共有し、知財権取得が可能な場合は知財権を弊社が取得、研究者は全世界へ向けて成果発表が叶うようフォローします。ただし研究関連分野は、資金の都度調達が必要になります。

量子生態学の一部及び宇宙2元波理論は、現時点で資料準備が万全ではありません。従ってコミュニケーションをとりながら、場合により黒板記載しながら理論を説明し、活用頂くスタイルになります。

アドバイザー：企業方針決定や課題解決セッション、自然摂理教育など
所要時間1日～2日・経費別¥100,000/日～

コンサルティング：技術や製品開発目的
量子生態学スクール10テーマセミナー実施（10日内外）
その後、課題等情報交換しながら技術確立へ
期間1年、経費別¥5,000,000-～



地下水汚染が、日本全国で確認されています。多くは、農地由来の硝酸態及び亜硝酸態窒素類で汚染原農地を特定できず、解消できない実態があります。一方フッ素化合物やVOC（揮発性有機化合物）類は特定工場周辺で確認されるケースが多く、該当事業者へは、行政から改善指導が出されます。汚染物は土壌浸透しており、実施される改善策の殆どは、汚染土を撤去して他所へ移動する方法で、これは真の汚染解消ではありません。汚染土壌が他所へ移るだけで、汚染は未来に残ります。

これに対し弊社の汚染解消技術は、該当汚染地で自然摂理に即した代謝機構の量子作用を応用し、汚染解消を実現します。

資金力が皆無で、これまでの汚染解消実験について経過分析が一切叶わずにいますが、本事業で資金調達が叶った際には、土壌のVOC及び放射能汚染から手がけ、解消能力を数値把握し、技術確立を目指します。他にも、社会問題になったフェロシルトや廃硫酸など、資金調達次第、取組み可能であれば汚染解消を探り問題解決のための技術確立を目指します。

本事業では最初に、弊社技術の有効性を、現地試験で確認します。まずは、VOC等一般汚染地所有者様へ協力を依頼、汚染地一角を100～200㎡程度ご提供頂いて、現地での汚染解消試験を、経過分析しながら進めます。一般汚染解消は1年内外で可能と想定していますが、汚染内容によっては追加処理しながら数年かかることも予想されます。仮に数年かけても、自然本来の清浄な土地を取り戻すことは環境蘇生再生の視点で重要と考え、本事業では、3年間追いかける予定です。

もうひとつ重要な汚染解消技術に、各地で堆積保管する放射能汚染土壌があります。行政からご協力を頂ければ、堆積保管地周辺で、汚染解消試験を実施します。こちらと同程度の試験用地を近隣で借り受け試験地とし、外部侵入が無きよう地下浸透が無いよう、安全対策に務めながら進めます。経過分析次第で、追加処理を実施、技術確立を目指します。また、この放射能汚染土壌処理試験作業に関わる皆様には、被曝の瞬間解消法を伝授し、日々の生活に導入いただき、弊社理論に基づいた健康管理を実施しながら作業を進めます。

■ VOC汚染 ■

汚染地の一角で現地試験実施



■ 放射能汚染土壌 ■

処理手順計画済み

許可が出れば試験開始



フッ素化合物・VOC・PCB等
放射能汚染土壌・フェロシルト
その他、廃硫酸等、廃棄物処理技術開発

現行技術による一般汚染物の土壌汚染解
技術実現時の費用目安
1000㎡当たり・3年継続処理費用・構造物無し平地

オリジナル資材費用＝¥800,000-
3年間作業費及び経過分析費用＝¥4,500,000-
管理費・技術費＝¥3,000,000-

諸経費等を含む合計額目安＝¥9,000,000-

上写真はいずれもイメージで、実際の汚染地ではありません

量子生態学による鉱物代謝理論を応用すると、福島第一原子力発電所の災害事故で発生しているトリチウム水や放射性廃棄物類を原材料として、種々の鉱物資源を工場生産できる可能性があります。冒頭で記載しましたが、日本の科学界も原子力関連企業団体も、弊社理論への興味も理解も皆無です。しかし弊社は宇宙2元波理論を見だし、本事業の技術確立の可能性を、より強く確信しました。

弊社の宇宙2元波理論では、宇宙起源時に次元と時間が発生した経緯やメカニズムと共に、現在の地球上における原子集合と物質形成システムの実現経過も説明します。そして量子生態学ではこのシステムを前提に、技術の訂正や改良、新開発などをフォローします。

現行科学の先入観を排除し、自然界メカニズムを素直に理解したい企業や研究者の皆様と協力し、地球環境の困難を解消する技術開発や研究成果を世界へご提供できれば幸いで、できる限り早期に、原子力問題の解決策を明確に提示できるようにしたいと考えています。

ただし本テーマは原子力問題に関わり、世界はもとより日本政府が敏感に扱う分野です。弊社の希望だけで着手可能な案件では無く、弊社への社会的理解、また理論への信頼が進まないとは実現は困難です。しかし万一理解頂けた場合、検証試験は早期実施が可能です。

ウクライナ戦争で頓挫しましたが、過去にロシアで実験を予定しており、実験条件や手順は整理が済んでいます。政府の理解や研究協力体制、及び資金調達が整った場合には、速やかに検証試験へと進むことは可能です。

**量子生態学・鉱物代謝理論による
放射性廃棄物を原料とした
鉱物の工場生産技術開発**



弊社代表夫婦は、1999年、東京都大田区より当地へ転居、新規就農しました。目的は、食べ物も資源も一個の住居単位で循環調達し、永続性のある暮らしを実現することでした。

日本の食糧自給率が驚くほど低いことは、多くの国民も知るところです。何らかの危機が発生したら、即刻ダメージをうけかねません。過去の種々の世界危機の時、家庭単位の食料生産が、多くの人々の命を救いました。流通が停止しても、野菜や果物を庭の一角で栽培すると常に新鮮で安全な食材を調達でき、ジャガイモやサツマイモの栽培は、いざというときに代替主食にもなります。また新規就農時に調査したところ、農産品の栄養価は驚くほど激減しており、自分で生産することで高栄養の農作物を入手したい思いもありました。

さらに、生活に必須の水や電気の自給はもちろん、廃水もリサイクル循環させ、自宅という閉鎖系敷地内で、資源類が循環する暮らしを実現したい理想がありました。

近年では、お客様が使う弊社器具内に、今まで出たことがないカビが突如発生する家庭が続出、原因を探ると、ここ10年ほどで家電製品内の半導体品質が変化しており、環境への電磁的影響が変化した可能性が窺えました。住宅もベタ基礎が主流になり、土が持つ優れたエネルギーを住宅に循環することが不可能になっています。資源循環の模索はもちろん、居住空間も生活スタイルも、量子視点で再検討する必要性を感じるようになりました。

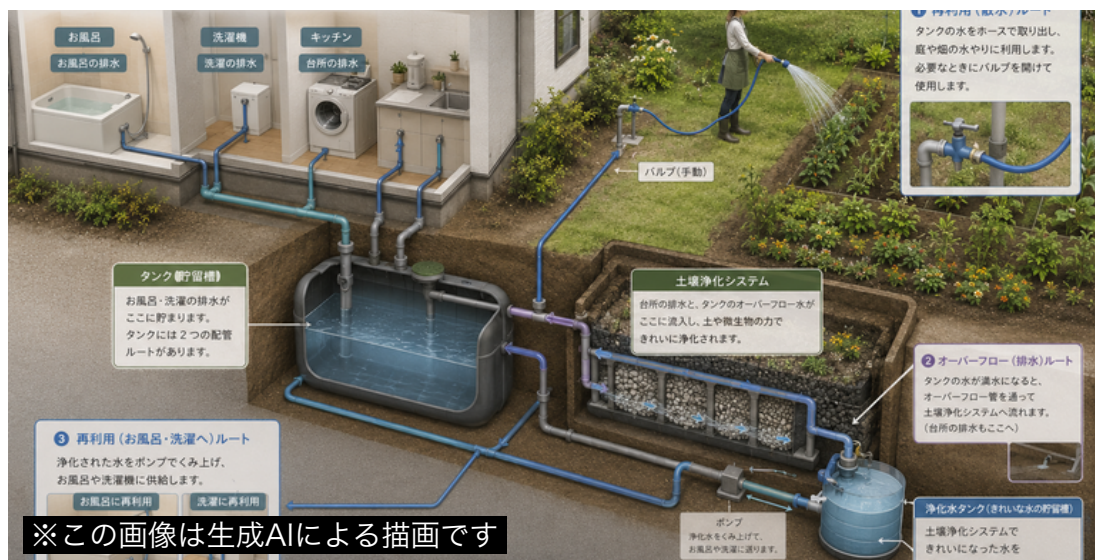
この事業は代表夫婦住居と弊社事務所を併設して可能な範囲で自然界量子が整う装備で建築、家庭菜園のある資源循環の実験ハウスとして、理想の居住システムを模索します。



ところで、自然摂理に沿う量子が整う生活スタイルとはどのようなことでしょうか？

例えば弊社代表夫婦は、洗濯用合成洗剤は殆ど使用しません。量子作用を応用した洗濯ツールと衣料用漂白剤をキャップ1/3～1/2程度を洗濯機に入れるだけです。洗濯機は一切カビませんし、雨天時も部屋干し臭はありません。入浴も合成色素使用の入浴剤は使わず、気分に合わせて単純アルカリ泉や酸性泉など、数種類の温泉質を再現するノウハウがあり、日々楽しんでます。また代表夫婦の夫・野上昭治は1934年生まれですが、医薬品を飲用していません。過去の疾病で幾つかの医薬品を処方されましたが、飲用すると体調不良を起こし、事実上、飲用できません。しかし食に注意しながら定期的に医師の確認を得ながら、薬を飲む必要性という束縛も無く、健康で元気に暮らすことができています。

自然摂理に沿う量子が整う暮らしとは、「過度な人的操作を作らず、地球が持つ豊かな恵みやシステムを、常に、正しく、活かせる暮らし」と想定しています。



閉鎖系資源循環、実験システムイメージ

●上水道系統（3ルート）

- 1・水道水配管
- 2・井戸水配管
- 3・リサイクル浄水システム配管

●電力系統（3ルート切り替え）

- 1・通常電力経路
- 2・蓄電池経路
- 3・新エネルギー発電実験経路

●排水系統（2ルート）

- 1・土壌浄化システム排水経路
洗濯水（洗剤不使用）
風呂水（合成化学入浴剤不使用）
台所排水（合成洗剤使用）

土壌浄化終末水＝家庭菜園等撒水
洗濯・風呂再利用

- 2・通常排水経路（浄化槽等通常廃水活用実験等）

命を支えた、世界各国の家庭菜園

ソ連＝ダーチャ

ソ連崩壊時に国家の流通システムが麻痺したとき、伝統的な家庭菜園による自給自足のネットワークが生命を支えました

キューバ＝オルガノポニコ

ソ連崩壊のあおりで食糧危機に陥ると、政府が都市の空き地を市民に開放、有機農園を推奨し、国民の生命を支えました

イギリス・アメリカ＝
Victory Gardens

第二次大戦中、政府が自家菜園を推奨し、アメリカでは国内消費の40%もの野菜を収穫、国民を救いました

北朝鮮＝ソトジ

1990年代、配給が停止になったとき、国民は山の斜面などを無断開拓して食料を生産しましたが、政府は黙認、多くの生命が救われました

ドイツ＝クラインガルデン

産業革命から第一次大戦、第二次大戦と常にジャガイモを生産し、主食として労働者を支えました

量子生態学・宇宙2元波理論は、今年、登場しましたが、ここへ辿り着くまでに、弊社では下記資料及び書籍類を出版しています。

2012年 量子生態学用元素周期表、及び、電子配位則表
 2022年 量子生態学テキスト
 2022年 鉱物代謝計算書
 2023年 意識を持つ原子たち・ネクサス AI が人間に変わる日
 2023年 mRNAワクチンレポート
 2024年 改訂・量子生態学用元素周期表摂氏版

これら執筆中、理論整理の過程でどうしても解明できなかったのが、中性子の機能性で、近代科学と量子生態学では、中性子の概念に天と地ほどの差がありました。

近代科学における中性子は、原子核として陽子をまとめる「糊のような役割」とされています。しかし量子生態学による中性子は、電子殻・電子軌道・電子配置・分子結合の、あらゆる現象を支配していました。そもそも「量子」に関しても見解差があり、加えて原子形成を担う中性子の機能性について、ここまで大きな差が出る原因を、皆目掴めませんでした。そこで近代科学による宇宙形成の考え方まで範囲を広げ原因を追及したところ、見えてきたのが、宇宙が2元波から始まった可能性でした。

2元波が作る現象をシュミレーションしたところ、今までの量子物理学の研究成果を、2元波理論でも説明できる可能性を見いだしました。且つ、量子生態学による中性子の機能性はもちろん、電子殻から分子結合までの中性子による影響など、いずれも合理的に説明できる可能性を見いだしました。そして、原点となる宇宙形成の根源に見解差がある故に、末端で大差が出ていることがわかりました。その結果、ようやく理解したのは、これだけの大きな理論差では、こちらからお願いする姿勢で大学と協力体制を作るのは不可能なことでした。現在の物理学を支持する立場では、到底、量子生態学を受け入れられず理解出来ない実態が、身に染みてわかりました。そこで既存科学と無関係に弊社単独で、量子生態・技術開発事業へと進む次第です。

本書は、宇宙2元波の全容を解説する予定です。

最初に、日本語版を目指し、国内出版後、様子を見ながら海外出版へ進みます。

翻訳版は、英語版で海外反応を探り、その後、多言語翻訳を模索します。

2027年 日本語版出版（日本国内・紙媒体+電子書籍）

2028年 英語翻訳版（海外出版・紙媒体+電子書籍）

英語版のダウンロード状況により、多国語出版展開



収益内容

日本語出版 = 自社出版
 海外出版 = 独占複製権利売却

量子生態学は、今の科学のように理論が複雑ではありません。宇宙自然界の基本現象メカニズムは統一であり、量子生態学を理解すると、様々な分野の現象を理解できるようになります。弊社が、量子コンピューターについても、多様な種類の汚染解消も、放射能処理についても、被曝医療も医学や農業についても、臆すること無く様々な分野に言及できるのは、自然界の統一現象を理解しているからです。

宇宙でも地球においても、全ては同じメカニズムで存在が実現していることを、認識してください。そして、この理解は中学生でも容易です。柔軟な思考能力の子どもたちが今から量子生態学を学ぶことで、将来の技術開発や研究を牽引する優秀な人材が、次々に誕生するでしょう。子どもたちばかりで無く、今の科学に疎い人も高齢者でも、自然の仕組みに興味を持つ人々が理論を理解したら、思わぬところで思わぬ成果を生むかもしれません。また自然界の本質がわかれば、むやみに人を傷つけたり物を捨てたり無駄にしたり、無益な行為が自然摂理に反し自分にも周囲にも不利益を生むことも、理解できるようになると思います。

自然の素晴らしさ、偉大さ、溢れるほどの自然からの恩恵の数々に、常に感動し感謝できる素養を身につけていただきたく、誰もがいつでも理論を学べる環境作りを目指します。

量子生態学スクール全10テーマ

基礎カテゴリ 4テーマ

- B1・基礎理論
- B2・現象発生理論
- B3・地球生成理論
- B4・進化論

補助カテゴリ 5テーマ

- S1・遺伝子前駆分子論
- S2・人体病理論
- S3・放射性物質処理論
- S4・地球温暖化理論
- S5・人類社会論

宇宙2元波理論

- ・次元及び時間軸の形成原因
- ・電子殻と電子軌道形成システム
- ・uud、udd、そして質量とは
- ・宇宙の記憶性と原子の意識性

書籍化に伴い上記項目名に変更が出ます

スクール収益

国内＝自社運営
海外＝独占放映権売却

お問合せフォーム



お知らせ

2026年5月16日、任期満了につき、役員変更いたしました。

これまで代表取締役社長だった野上昭治は取締役会長へ就任、取締役だった野上倫加（本名・野上導子）が代表取締役社長に就任いたしました。

社名・株式会社ソウルリバースバンキング

〒323-1105 栃木県栃木市藤岡町甲1687-1

電話番号：0282-61-1161

法人番号：4-0600-0101-7562

インボイス番号：T4060001017562

資本金：6万円

会社サイト：<https://www.nogami.co.jp/srb/a-index.html>

理論サイト：<https://www.nogami.co.jp/qewj/index.html>

顕微鏡動画サイト：<https://www.youtube.com/@qenogami>



顕微鏡動画サイト
(youtub)



理論サイト



会社サイト

量子生態学・技術開発 step1事業 必要経費

基本事業 運転資金・2年分					
step1説明書	一般管理費	役員報酬	PC機器類購入	移動用乗用車購入	合計額
7ページ	¥ 5,000,000	¥ 11,000,000	¥ 500,000	¥ 3,500,000	¥ 20,000,000

一般汚染解消技術確立					
step1説明書	資材仕入れ費用	分析費用/10回程度	社内試験費用	現地作業外注費用	合計額
8ページ	¥ 5,000,000	¥ 3,000,000	¥ 500,000	¥ 1,500,000	¥ 10,000,000

実験ハウス建設					
step1説明書	土地取得手続き費等	住宅建設費	外構費	特注設備費	合計額
10-11ページ	¥ 20,000,000	¥ 35,000,000	¥ 5,000,000	¥ 10,000,000	¥ 70,000,000

理論書出版費/2000部程度					
step1説明書	協力出版	宣伝広告費			合計額
12ページ	¥ 5,000,000	¥ 15,000,000			¥ 20,000,000

webスクール映像制作費					
step1説明書	映像製作外注費				合計額
13ページ	¥ 60,000,000				¥ 60,000,000

その他			
	借入金返済/個人	他予備費（知財権取得費・インフレ対応等）	合計額
	¥ 10,000,000	¥ 10,000,000	¥ 20,000,000

総合計額			¥ 200,000,000
------	--	--	---------------

量子生態学・技術開発 step1事業 収益計画

年度		2026	2027	2028	2029	2030
1dayセッション 説明書7ページ						
受注件数		3	10	30	30	30
単価	¥ 100,000	¥ 300,000	¥ 1,000,000	¥ 3,000,000	¥ 3,000,000	¥ 3,000,000
予測利益（粗利）	60%	¥ 180,000	¥ 600,000	¥ 1,800,000	¥ 1,800,000	¥ 1,800,000

アドバイザー事業（上場企業は別料金）説明書7ページ						
受注件数		2	5	10	10	10
単価	¥ 1,000,000	¥ 2,000,000	¥ 5,000,000	¥ 10,000,000	¥ 10,000,000	¥ 10,000,000
予測利益（粗利）	60%	¥ 1,200,000	¥ 3,000,000	¥ 6,000,000	¥ 6,000,000	¥ 6,000,000

コンサルティング事業（上場企業は別料金）説明書7ページ						
受注件数		0	2	2	2	2
単価	¥ 5,000,000	¥ 0	¥ 10,000,000	¥ 10,000,000	¥ 10,000,000	¥ 10,000,000
予測利益（粗利）	60%	¥ 0	¥ 6,000,000	¥ 6,000,000	¥ 6,000,000	¥ 6,000,000

一般汚染解消事業／将来ノウハウ売却 説明書8ページ						
事前試験		1	3	3	5	5
販売単価	¥ 500,000	¥ 500,000	¥ 1,500,000	¥ 1,500,000	¥ 2,500,000	¥ 2,500,000
受注面積		0	3	3	5	5
販売単価(10a当/年)	¥ 3,300,000	¥ 0	¥ 9,900,000	¥ 9,900,000	¥ 16,500,000	¥ 16,500,000
予測利益（粗利）	¥ 1,300,000	¥ 0	¥ 3,900,000	¥ 3,900,000	¥ 6,500,000	¥ 6,500,000

実験ハウスは協業者があり、今の時点では試算に入れていません 説明書9-10ページ						
--	--	--	--	--	--	--

量子生態学・宇宙2元波理論書籍販売／海外含まず 説明書12ページ						
販売部数(国内)	電子書籍込み	執筆	5,000	10,000	10,000	10,000
著作権料（国内）	¥ 330		¥ 1,650,000	¥ 3,300,000	¥ 3,300,000	¥ 3,300,000
予測利益（粗利）	100%	¥ 0	¥ 1,650,000	¥ 3,300,000	¥ 3,300,000	¥ 3,300,000

量子生態学・宇宙2元波理論スクール／海外含まず 説明書13ページ						
受講者数（WEB 日本語）		映像製作	映像製作	2,000	10,000	20,000
販売単価	¥ 100,000	映像製作	映像製作	¥ 200,000,000	¥ 1,000,000,000	¥ 2,000,000,000
予測利益（粗利）	60%	¥ 0	¥ 0	¥ 120,000,000	¥ 600,000,000	¥ 1,200,000,000

上記合計予測粗利総額		¥ 1,880,000	¥ 16,650,000	¥ 142,500,000	¥ 626,100,000	¥ 1,226,100,000
管理費人件費差引額		運転資金内	運転資金内	- ¥ 30,000,000	- ¥ 33,000,000	- ¥ 36,300,000
各年度合計利益額		¥ 300,000	¥ 8,250,000	¥ 112,500,000	¥ 593,100,000	¥ 1,189,800,000

数年後の権利類 売却額（全世界 数力国）		
汚染解消技術	ノウハウ国内売却	¥ 300,000,000
書籍複製権（3書籍）	海外売却（10力国程度）	¥ 600,000,000
webスクール放映権	海外売却（10力国程度）	¥ 2,000,000,000
権利類 売却額		¥ 2,900,000,000